

荊崎高等学校の震災被害状況

茨城県立荊崎高等学校 川村 修

1. 当日の学校の状況

3月11日当日は、追認考査のため5時間授業で、ほとんどの生徒は下校しており、校内には追認考査該当者約15名、部活動の生徒約25名（計約40名）が教室及び卓球場にいた。教員は第二次募集の学検委員会と、追認考査の監督、部活動指導を行っていた。

2. 地震発生時の様子

1階応接室にて会議中の教員約10名は、室内にて待機していたが、揺れがおさまる様子がないので一部は校舎外へ、一部は追認考査実施中の教室へ向かった。校舎外に出た教員、教室にいた教員及び教室へ向かった教員で生徒を校舎外へ避難させ、校舎前のロータリーに集合した。避難中パニックを起こす生徒もいたが、幸い負傷者は出ず、生徒が少数であったことが幸いした。

3, 4階の教室では追認考査中、机の下に入るよう指示。15:15の余震の前に避難。校舎外のロータリー付近にて待機中、茨城県沖の余震が発生し、駐車中の車が大きく揺れ、国旗掲揚塔、石碑などが根元から大きく揺さぶられ、全員その場から動ける状態ではなかった。

3. 地震発生後の対応（待機・避難の様子、避難場所の様子）から生徒の下校まで

ロータリー付近で生徒、職員全員で地震がおさまるのを待ったが、なかなかおさまらずそのまま待機した。茨城県沖の大きな余震(15:15)の後、15:30頃から生徒の下校の対応を行い、18:00までには生徒全員、保護者へ引き渡し及び各自下校させた。

その後管理職、事務職員を除く職員は順次帰宅した。水道管の破損による浸水がわかったのはその後で事務職員等が応急処置を行い、全ての職員が帰宅したのは20:00であった。

校内が停電することはその後も無かったが、上記の水道管の破損のためにその後2, 3日一部が断水した。

4. 校内の被害状況

①職員室 机の上の書類や本立ての本や書類が落下したが、大きな破損はなかったためすぐに通常の状態に戻せた。。

②教室棟 教室はほとんど被害無し。ただし廊下等の校舎の継ぎ目のカバーはほとんど破損した。

③実験実習室等

化学室 ビーカー等多数のガラス製品が落下破損した。

美術室 石膏像がほとんど転倒、落下し破損した。





④体育館 天井のパネルが数枚が、破損し落下した。天井に隙間ができた。



⑤校舎周辺 校舎基礎部分と側溝の隙間（5 c m） 校舎基礎の上昇（約3 c m）



校舎基礎部分と側溝の隙間

昇降口化粧タイルの剥離



5. 当日の学校周辺の状況

帰宅途中の荃崎周辺の様子は特に大きな変化は無いと思われたが、屋根瓦の破損が土浦周辺に行くに従い多くなった。また幹線道路に入ると、とたんに渋滞になった。原因は土浦市内の多くの信号機が停電で点灯しないためであった。交差点では運転者同士顔を確認し合いながら交互に通行した。土浦市内はほとんどその晩は停電となり、翌朝には復旧した。断水は断続的に続き正常に戻るまでに約1週間かかり、市内各所に給水車が配された。翌週（3/14）からはガソリンスタンドに行列が並び、3月いっぱいまではガソリンスタンドが正常に営業されなかった。

6. 地震後、学校再開まで

生徒は翌週から自宅待機になり、そのまま春休みに入った。終業式は実施しなかったが、3月23日合格者説明会は予定どおり実施した。体育館は天井パネルの落下により使用できなかったため小体育館（卓球場）で実施した。ほぼ全員が出席した。その後被災者の受け入れがあるかもしれないとの話も出たが、実際には無かった。

新学期からは通常通り再開し、始業式、入学式は小体育館で滞りなく実施した。新学期以降体育館が使用不能な他は特に問題なく通常の学校活動を行なうことができた。1名外国人生徒が、放射能の心配から約2ヶ月間母国に帰国し、5月半ばには戻った。9月から福島出身（浪江高等学校合格者）の1年生が埼玉の高校を経て本校に転入し、現在も在学中。冬頃には被災時の様子を学年の生徒に語れるようになった。

7. 今回の地震について反省、改善すべき点等

幸い本校では地震発生時に在校生徒が少なかったことや、帰宅できない生徒及び近隣からの避難者が全くいなかったことで、当日大きな混乱はなかったが、全校生徒がいる状態で地震が発生していたら、大きな混乱は免れなかったと思われる。その後、地震等の災害発生時の防災マニュアルが見直されたが、避難住民や避難者が来校した場合について、まだまだ不十分なところも多く、今回の経験を生かし、他校の状況も参考にしながらなおも検討を重ねたい。